

安戸バイパスで街頭活動 ～夏の交通事故防止運動～

7月15日、安戸バイパスにおいて、夏の交通事故防止運動の街頭活動が行われました。

街頭活動では、小川警察署の主催により東秩父村、小川地方交通安全協会東秩父支部、交通指導隊、交通安全母の会の皆さんが中心となって、啓発資料の配布と安全運転の呼びかけが行われました。

8月は、レジャー等で出かける機会も多く、また村を訪れる人も多くなります。皆さんも心にゆとりを持ち、交通事故に遭わないよう、また起こさないよう十分注意しましょう。



農業委員に小宮要二氏



6月24日に役場において農業委員会が開催され、新たに農業協同組合の推薦により、小宮要二氏（御堂）が選任されました。

版画フォーラム2011 全国から392点

版画フォーラム2011和紙の里ひがしちぶ展が、6月25日から7月3日まで和紙の里で開催されました。主催は版画フォーラム実行委員会、今回で8回目となります。今回の出品者は281人、出品点数は392点、24都道府県と海外2カ国から寄せられ、約2000人が訪れました。地方の版画展としては大きなものと言われ、恒例の展覧会となっています。

大賞に栃木県の相澤さん

今回の版画フォーラム大賞は、相澤宏邦さん（栃木県）の「夕映え」が受賞しました。

村の提供した賞では、村長賞に大塚勝さん（千葉県）の「坂の家」、村議会議長賞に岩井順子さん（富山県）の「はないちじく」、同教育長賞には野々なずさん



▲版画フォーラム大賞 相澤宏邦さんの作品「夕映え」

（兵庫県の「チューリップとポピンレース」）が選ばれました。

25日に行われた開会式兼表彰式には、約100人が参加し、その後の交流会には80人が参加し盛況に行われました。

誰でも参加できる展覧会

この展覧会は版画作家なら誰でも参加でき、今回は日展で活躍する方から小学生までが参加しました。また、すべての出品作品が展示され入賞者も100人を超え、さらに入賞作品は協賛企業が主催する協賛展に再展示されるのも大きな特徴です。

今回は、小川和紙活性化委員会（代表 高橋優子さん）の協力で、村の小学生に版木が提供され、和紙の里の和紙に版画を摺って出品して人気を得ました。これは、和紙の活性化のため子どもたちに手漉き和紙を使っていたかどうかという思いと、小学校の郷土の時間が結びついた

もので、児童一人一人に審査員の講評と図録が送られました。また、中学生は選抜された2点が出品されました。関係者の一人は「子どもたちの作品からは楽しさが伝わってきます。大人になるとこの明るさがないですね。大変良い作品でした。」という声が聞かれました。

チャリティで50万円を寄付

今回の展覧会は、東日本大震災の直後であり、開催が危ぶまれる時期もありました。しかし、常連の出品者で今回の震災の影響を大きく受けた橋本広喜（福島県）さんから、ともかく普通に開催してほしいと「元氣」と書いた垂れ幕が送られるなど常連の作家に後を押される形で開催でした。

そこで実行委員会では、チャリティ作品の販売を行い、期間中で50万円余りを売り上げ、NHK厚生文化事業団へ送ることにしています。

これは、作家が寄付した作品を一般に販売したもので、全売り上げを義援金として寄付します。多くの作家から260を超える作品の提供があり、実行委員会では作品の提供者、購入者共々に感謝したいと述べています。